

開館20周年記念特別展
「井上ひさしの劇列車II」

関連イベント

井上戯曲の
魅力はどこにあるのか。

これからの時代、新たな観客に
井上戯曲をどのように
伝えていくのか。

井上ひさしの舞台に

取り組んだ経験を持つ

演出家二人に、その思いを

語っていただきます。

演出家と語る
井上戯曲のこれから

●出演 永山 智行

1967年、宮崎県生まれ。劇作家、演出家。宮崎県の三股町立文化会館をフランチャイズとする劇団こぶく劇場代表。2001年「so bad year」でAAF戯曲賞受賞。2006年から約10年間、公益財団法人宮崎県立芸術劇場演劇ディレクターも務め、九州の俳優を集めてのプロデュース公演「演劇・時空の旅シリーズ」を企画・演出した。2013年にはそのシリーズの第5弾として、井上ひさし「日本人のへそ」の演出を手がける。劇団結成から25周年にあたる2015年、市井の人々のかけがえない日常を描いた「ただいま」を発表。宮崎・福岡・三重・愛媛・東京で公演を行い、好評を博した。



井上作品に寄せる思い

わたしは霧島という山が見える土地で生まれ、育ち、いまも暮らしています。遠くに見えるその山に登ってみたいとも思うのですが、でも朝な夕なに眺めるその景色に、わたしがいまここにいることを何度も教えられています。わたしにとっての井上作品は、そこにあることでわたしの居場所を何度も教えてくれるそんな山々のような存在です。もちろんまた登ってみたいのですけどね。

現在開催中 開館20周年記念特別展

井上ひさしの劇列車II

4月5日(日)まで

交通のご案内

バス利用の場合

- 宮城交通バス
仙台駅西口バスプール2~4番乗り場
仙台北・泉地区方面行
(急行・北山トンネル経由を除く)

- 市営バス
仙台駅西口バスプール4番乗り場 八乙女駅行

※いずれも「北根二丁目・文学館前」下車

地下鉄利用の場合

地下鉄南北線「台原駅」下車、徒歩約25分
(台原森林公園内あかまつの道経由)

駐車場40台[無料]

台数に限りがございますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。



●出演 上村 聡史

1979年、東京生まれ。演出家。2001年文学座附属演劇研究所入所。09年より文化庁新進芸術家海外留学制度において1年間イギリス・ドイツに留学。18年に文学座を退座。15年に新国立劇場「アルトナの幽閉者」、文学座「信じる機械」他の演出で第17回千田是也賞、同年、「炎 アンサンディ」、風姿花伝プロデュース「ホビー・フィッシャー」はバサデナに住んでいる」の演出で第22回読売演劇大賞最優秀演出家賞を受賞。近年の主な演出作品に、「正しいオトナたち」「終夜」「オレステイア」「ブラッケン・ムーア〜荒地の亡霊〜」「大人のけんかが終わるまで」「岸 リトル」「冒した者」「城塞」「中橋公館」「弁明」など。井上戯曲は林光作曲「イヌの仇討」を18年にオペラシアターこんやく座で演出。



井上さんとの思い出

今から12年前のわたしが28歳の頃、こまつ座「父と暮せば」に演出助手で参加させていただいたのが井上さんとの初対面でした。「風景が見えるようにト書きを読んでくれてありがとう」と稽古初日の本読みの後、緊張するわたしに優しく話しかけてくれたのをよく覚えています。お会いするまでは、鋭い批評眼を持つ怖い人だろうと思っていたのですが、そこにいらっしやったのは、ご自身主宰の劇団に集った仲間を歓迎する演劇人「井上ひさし」でした。

●聞き手 山口 宏子

1960年生まれ。83年朝日新聞社に入社。東京本社芸芸部(現・文化くらし報道部)で演劇を中心に取材、批評などを執筆してきた。西部本社(福岡)、大阪本社にも勤務。編集委員、論説委員などを経て、現在はオビニオン編集部記者、言論サイト「論壇」担当、武蔵野美術大学非常勤講師。2003~04年、早稲田大学演劇博物館客員研究員。09~10年、NHK-BS2(現・BSプレミアム)の「ミッドナイトステージ」演劇はいま」の司会を担当。共著に「穂川幸雄の仕事」(新潮社)。



3/15(日) 13:30~

会場 仙台文学館 講習室

定員 100名[抽選]

※イベント入場の際は、会期中の特別展観覧券の半券が必要です。

申し込み 往復はがきイベント名、お名前、ご住所、お電話番号を明記の上、仙台文学館へ。はがき1枚につき1名の申し込み。締切りは2月27日(日)必着。申し込み多数の場合は抽選となります。

(公財) 仙台市市民文化事業団
Sendai Literature Museum
仙台文学館
https://www.sendai-lit.jp/

〒981-0902 仙台市青葉区北根2-7-1
TEL.022-271-3020 FAX.022-271-3044